

阪神・淡路大震災による被災構造物群(1)

被災構造物を残した技術者の思い

坂下 泰幸 正会員 阪高プロジェクトサポート(株) 代表取締役社長

都市直下型地震によるインフラの被害

1995年1月17日午前5時46分、激しい揺れが神戸を襲った。気象庁の現地調査により、神戸市街地の主要な部分にわが国で初めて震度7の激震が適用された。この地震により先人が営々と築いてきた神戸の街が一瞬のうちにがれきりとなり、阪神高速道路の倒壊、鉄道駅舎の崩落、ガントリークレーンの転倒などの映像に、人々はわが目を疑った。4月に兵庫県が推計した県内の被災額は、主要なインフラだけでも高速道路5500億円、高速道路以外の公共土木施設2961億円、鉄道3439億円、港湾1兆円、ガス・

電気4200億円、通信・放送設備1202億円、水道施設541億円などの多額にのぼった。

選奨土木遺産に選定された被災構造物

それぞれの施設の管理者・事業者は、余震による二次災害の防止や損壊した施設の復旧などに忙殺される中で多くの被災構造物を観察し、被災経験を踏まえた耐震技術の向上のためにこれらの構造物を残すべきだと考えたようだ。かくして、いくつかの重要な被災構造物が保存されることになったのである。それらの内から写真1に示す7点が選奨土木遺産に選定された。■震災資料保管庫に収蔵・展示されている被災構造物

(阪神高速道路の被災構造物を体系的に展示しているもの)、■神戸港震災メモリアルパーク(神戸港の被災した水際線の一部をそのまま姿で保存しているもの)、■須磨海浜公園に設置・展示されている被災道路構造物(撤去された西代跨線橋の橋脚等を須磨海浜公園に展示しているもの)、■水の科学博物館に収蔵・展示されている被災水道管(被災水道管を博物館に設けた特設コーナーで展示しているもの)、■東水環境センターに収蔵・展示されている被災下水道構造物(破損したコンクリート杭等を事務所ロビーに展示しているもの)、■阪神淡路大震災浜手バイパス被災構造物メモリアル(国道2号浜手バイパスの破損した構造物を道路区域内

に展示しているもの)、■人と防災未来センターに設置・展示されている被災道路構造物(センターの前に阪神高速道路の被災構造物を展示しているもの) (1~7の番号は写真と対応)。

震災を乗り越えて

これらの被災構造物の中には当初は被災者感情を考慮して保存していることを積極的に公表していないものもあった。今これが注目されているのは、痛みや悲しみを乗り越え、被災経験を語り伝えていこうということなのだと思う。これを復興というのであろう。

(左三編委員・稲田憲武)

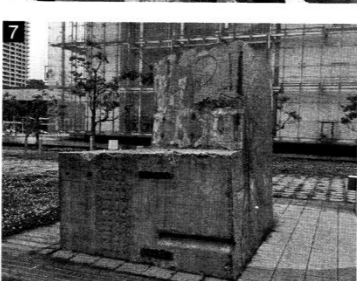
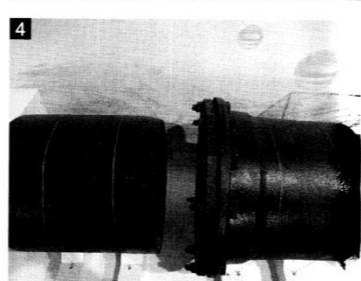
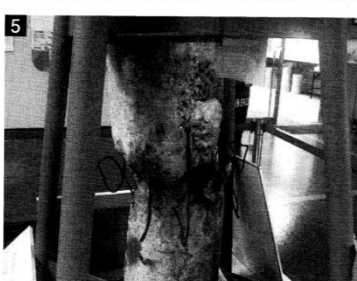
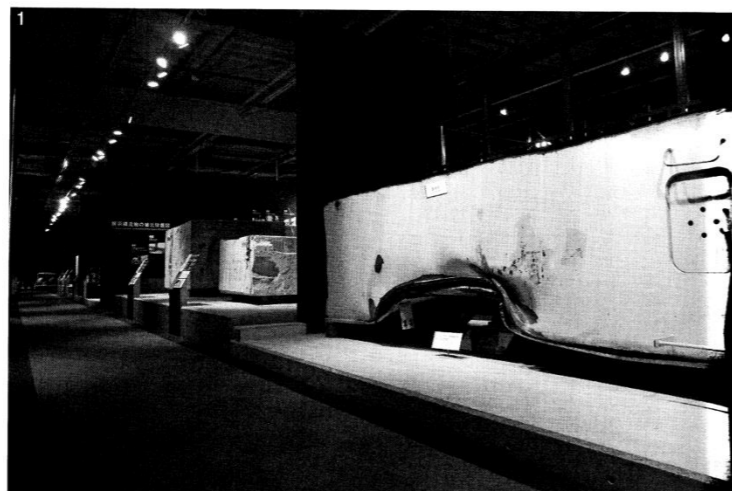
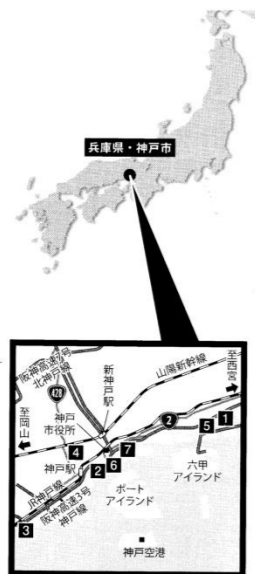


写真1 選奨土木遺産に選定された被災構造物

- 諸元
- 震災資料保管庫に収蔵・展示されている被災構造物
所在地 神戸市東灘区深江浜町
管理者 阪神高速道路(株)
 - 神戸港震災メモリアルパーク
所在地 神戸市中央区波止場町
管理者 神戸市
 - 須磨海浜公園に設置・展示されている被災道路構造物
所在地 神戸市須磨区若宮町
管理者 神戸市
 - 水の科学博物館に収蔵・展示されている被災水道管
所在地 神戸市兵庫区楠木谷町
管理者 神戸市
 - 東水環境センターに収蔵・展示されている被災下水道構造物
所在地 神戸市東灘区魚崎南町
管理者 神戸市
 - 阪神淡路大震災浜手バイパス被災構造物メモリアル
所在地 神戸市中央区新港町
管理者 国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所
 - 人と防災未来センターに設置・展示されている被災道路構造物
所在地 神戸市中央区臨浜海岸通
管理者 兵庫県

備考: 2018(平成30)年度選奨土木遺産に認定



SAKASHITA Yasuyuki
1979年京都大学大学院修士課程修了。阪神高速道路公団に入社し主に計画・建設部門を経験する。阪神高速技術(株)を経て2018年より現職。

